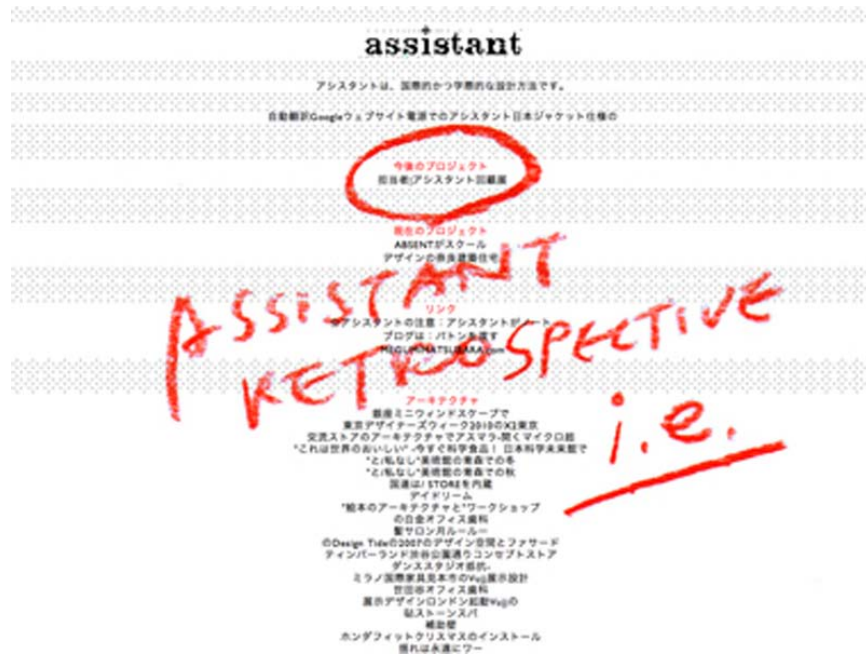


2010.12.10 _ 2011.1.16

gallery talk: Saturday Conversation Pieces 12.18 Sat 13:00-



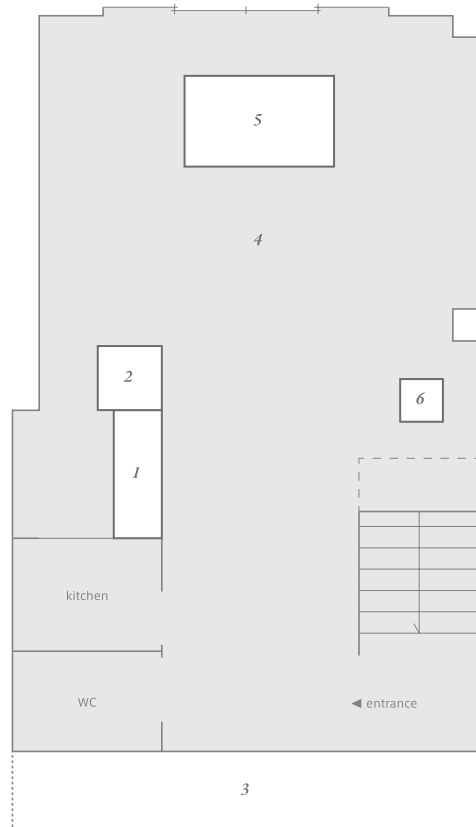
Profile

Assistant

松原慈と有山宙による建築ユニット。建築設計や都市研究における詩的なデザイン活動で知られ、分野や国境から開放された自由な創造を展開する。日本科学未来館、DesignTideや、ヨーロッパ各国の美術展、デザイン展で手がけてきた空間設計に加え、森美術館、青森県立美術館などの各地の美術機関における建築をテーマにしたワークショップなど、建築、美術、デザインが交わる点に活動の多くがみられる。

Main Project

- 10 ・33年目の家 (住宅設計、奈良市、SD Review 入選)
- ・Symmetric Arrangement of Time and Space (ワークショップ、国際芸術センター青森)
- 09 ・'おいしく、食べる'の科学展 (空間・展示設計/アートディレクション、日本科学未来館)
- 08 ・with/without me (ラブラブショー展展示資料室設計、青森県立美術館)
- 08 ・Translucent Passage (mellow fever展空間設計、Galerie des Galeries、パリ)
- 08 ・BOOJUM (インスタレーション、ディーゼルデニムギャラリー 青山)
- 07 ・Woven Marionette (DesignTide会場空間設計)
- 07 ・Tremors were Forever (ル・コルビュジエ展ワークショップ、森美術館)



photo(C) assistant

- 1 案内カウンター —— 利用案内、テキストの貸出し、閉架資料の取り出しを行ないます。
- 2 開架テキスト閲覧室 —— assistantの思考の断片（テキスト）を閲覧できます。
- 3 閉架資料庫 —— テキストに関連した資料が取蔵されています。
- 4 閉架資料閲覧テーブル —— 閉架資料の閲覧を行ないます。
- 5 音声・映像資料閲覧室 —— 閉架資料のうち音声、映像資料の閲覧を行ないます。
- 6 ミニ展示コーナー —— 毎週テーマに沿った資料を展示します。



回顧展、ライブラリ、アクティベートされる思考



会場にはたくさんの言葉が並べられています。これらの言葉は、assistantがこれまでに行ってきたプロジェクトの途上で二人が取り憑かれた着想や思考の断片です。分野や媒体にあらかじめ制限を設けない彼らの自由な思考がひとところに展開しているという意味において、いわば、この会場はassistantの思考のアーカイブとなっています。

それはまるでライブラリのようなだとあなたに思わせるかもしれません。実際のこの空間はそのようなものとしてassistantに設計されています。あなたが目にすることができる「開架室」に並ぶ言葉には、それぞれにその言葉から生み出された「参照資料」が用意されています。しかしその「参照資料」が収められている「閉架室」に関しては、あなたはその全てを目にすることができず、あなたが選んだ言葉と関連づけられた資料をのみ閲覧することができます。あるプロジェクトで「詩がそのまま設計図になったこともある」と述べているように、言葉はassistantにとって説明の道具ではなく、着想や思考の断片であり、かつそれをドライブさせる作用となっています。この会場に並ぶ言葉もまたそのような役割を担っています。

そして通常ライブラリが書籍を貸し出しているように、ここでも言葉を貸し出しています。それは詩の一節、書籍の数ページ、書籍そのもの、絵、音楽、映像、立体物など、形式は問われません。貸し出された言葉は期間中、それを借りた人によって、あらたな参照物を生みだしていくこととなります。そして、言葉と共にライブラリに返却、寄贈されることとなります。

そのようにして持ち込まれた「参照資料」は「閉架室」へ入ります。「開架室」の言葉それぞれは、その「参照資料」を意味内容のようなものとして増やし、アクティベートされていくのです。アーカイブは、assistantの思考が喚起した他者の思考を取り込みながら参照関係の網の目を成長させていきます。

これはassistantの回顧展ですが、その言葉から思い起こされるような並べられた「作品」も、スタイルの変遷もここにはありません。それでもなおこれが回顧展と呼びうるのならば、それはここに「これまで」が溢れているから、という理由にあります。彼らはそこで「個別の作品」という制約を取り外し、それぞれに取り憑いた着想や思考を総体として提示します。そのねらいは、それらを他者に転移させることによってまた別の未来へと開いていくことなのです。

(rep)





2010.12.18 Sat 13:00-
土曜日の対話集
Saturday Conversation Pieces

photo(C) RAD



須川咲子 (hanareディレクター)



篠原雅武 (都市論・政治理論)



嘉戸浩 (唐紙職人)



多田智美 (MUESUM)



鈴木崇 (アーティスト)



ピーター・クック卿 (建築家)



鞍田崇 (哲学者、現象学)